



2011～2012

沼田ロータリークラブ会報

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために
Reach Within to Embrace Humanity

2011～2012年度 国際ロータリー会長 カルヤン・パネルジー

例会日…毎週火曜日 12:30 会長 水石清治 幹事 宮内明彦 会報編集 星野貴明
例会場及事務所 沼田市東原新町1540 利根郡信用金庫本店内 TEL 0278-24-1177

第2693回 例会報告

2012年5月18日

記録 星野貴明

例会予告

5/22	沼女同窓会長 登坂正子様
5/29	長沢久美子先生

<http://www.rid2840.jp/numata/>

2012年5月22日発行 No.43

沼田ロータリークラブ教育講演会・沼田JC文化アカデミー人づくり講座

於 利根沼田文化会館

金メダルをつかむ チームワーク

元女子ソフトボール日本代表監督 宇津木 妙子 先生



■司 会 沼田市青年会議所 倉澤貴之君

■沼田ロータリークラブ水石清治会長挨拶

本日はお忙しきなか多くの方々にご来場いただきありがとうございます。開演前にインドでのポリオ投与を見ていただきましたが、ロータリーがポリオ撲滅に取り組んでいる様子です。昨年と今年に私も参加してインドに行って投与してまいりました。ロータリー活動は、地域の生活改善にも取り組んでいる世界的ネットワークです。沼田でもいろいろな活動をしていますので皆様方のご理解、温かいご支援をお願いします。

■沼田市青年会議所真下竜介理事長挨拶

多くのご来場誠にありがとうございます。

利根沼田在住、在職の20～40才までの会で、会員53名が豊かな社会づくりを目指して活動しています。その中の活動で文化アカデミー人づくり講座として、沼田RCと共催させていただきました。宇津木先生のチームワークの本質を学びたいと思います。今年10月に創立40周年行事も行い、来月みなかみ町でフォーラムも開催します。今後とも青年会議運動にご理解ご協力をお願いします。

■講師紹介 沼田青年会議所金子英樹君

先生は皆様ご存知の様に、女子ソフトボール界でご活躍の方で、シドニーで銀、アテネで銅を取った時の監督です。先生が強いチームづくりをどう行い、チームワークの大切さ



その本質は何かという事をお聞きいただきたいと思います。

■講演

本日はお話しをの機会をいただきありがとうございます。この講演は皆様方の力で開催できた事に感謝しています。最近特にソフトボールに感謝しています。世界中に行き多くの方々と知り合い、体はガタガタですが、ソフトをやめずに続けて本当によかったと思えるようになりました。日本中にソフトを普及する活動をしています。東日本大震災の復興支援もソフトを通じて行い、被災者の方に少しでも役に立ちたいと思い行っています。

私は埼玉県生まれで5人兄弟の末っ子で、出来も悪く他の兄弟とは少し変わっていたようです。授業参観後母は先生に勉強させるようよく言われたようで、兄達とはだいぶ違ったと言われましたが、人はそれぞれ違い、それが個性でそれをどう育てるかが大切です。私は母に認めてほしい気持ちで運動が少しかつたので、バレーやテニス等多く試みました。

ソフトボールは、中学の部活で入学した時に知っているソフトのピッチャーの先輩に声をかけられたのが始まりです。部のルールと1年生の役割を習い、下働きからです。1人ではなく仲間と助け合う団体活動です。先生先輩が絶対の関係ですから、いつも「すみません」の言葉だけでガマンの世界でした。3年の県大会では優勝を目標にしていたので、2年生の1月から休まず練習、8月決勝まで勝ち上ったけど最後に負けて泣きました。

高校はソフトボールで入り、更に厳しさが増し必死に練習しました。その中で、あまり

の事があり先輩に盾突き、おかしいと反論しました。連帯責任で1年生がおこられ、1年生が学校を集団で欠席しようとなりましたが、私以外は出席して実行しませんで、裏切られ1人で一週間家に無断で欠席を続けましたが、校長に呼び出され戻りました。1ヶ月草むしりからさせられましたが、校長にチームは皆がいてチームと論され、根性が無い事に気付かされ頑張りました。一ヶ月後に新人戦がありスタメンに名前がありました。くやしさをばねに初優勝できました。それはうれしかったのですが、それより皆で戦えた事がそれ以上に大きく感じました。

しかし、自分が選ばれた代わりに落とされた同級生がいました。そのためイジメにもあい、誰にも言えず苦しみました。その子に認められるまで頑張る決意をしました。そのために人より早くから遅くまで練習し、努力は人を裏切らないという言葉をいつも思い出そうにキーホルダーにしました。

高3になりキャプテンを命じられ、インターハイ、国体を目標に頑張り、国体には単独校で出場し決勝に進出しましたが負けてしまいました。イジメていた人にお礼と感謝を受け、2人で泣いてわだかまりをときました。つらい事、苦しい事を頑張れたのは、あなたのお陰で、挫折しつらかったけど互いにつらい思いをしていたのを学び、続けてきた事、やめなかったから乗り越えられ、強い心を持てたと感じました。

卒業後実業団のユニチカ垂井に入りました。父は遠くに行く事もあって反対しましたが監督からレギュラーにすぐなれるからと言われ承諾してくれました。岐阜に行く時、高校の監督から東日本一のピッチャーのフロクで入れたと言われ、電車の中のトイレで泣いて、先生を見返してやると誓いました。高校と実業団ではレベルが違い、必死に練習しました。5月の連休に両親が岐阜に来て、下働きのしながら練習している様子を見て連れて帰ると監督に言うとは3年たつてだめなら帰すと約束してもらいました。練習は自ら考えて行い、先輩の良い所を盗むのが大事で、監督は見ているだけです。試合に出るには、先輩がケガで欠場する時がチャンスで、その時に体全体でアピールしてなり振りかまわず大声で頑張りました。チャンスをものにし、他の

選手との違いを認めてもらう事です。レギュラーになれば責任は重く、更に考えた練習を学ばなければ続きません。普通の選手は5～6年で結婚し引退するのが多いのですが結婚しなかったのが13年続けました。

ユニチカと言えば当時はバレーボールでした。ソフトボールとは環境が雲泥の差でしたが、仲間に助けられ目標に向かう事で心が一つになりました。通常の勤務は、福利厚生係で寮生への郵便配りや雑用です。トイレの掃除や修繕もしました。全体の中で誰かがしなければいけない仕事とは理解していたけど、少しコンプレックスを感じましたが続け、最後の3年間は寮母をしました。その時に人を学び、個性を生かす方法を学びました。

ソフトで入社し、ソフトを終えて退社して埼玉に帰りました。埼玉の母校でソフトの世話をしていた時に、高崎のルネサスに来ないかと言われ、アルバイトのつもりで昭和60年に入りました。3部に所属していたので1部を目指しました。何故勝てないのか、練習の方法から指導、次の監督が決まるまでと思い、先頭に立って引っぱって行きました。当時は男性が監督をするものと誰もが思っていましたので。

その年の末に会社から監督を依頼され、両親と母校に相談しました。父は、選手時代は自分の事だけを考えれば済むが、監督は、親代わりであり社長と同じ、ソフト選手だけでなく人を育てる事と言い無理だと言われました。高校のイジメ、ユニチカ入団の時の話を父に初めて話しました。理解して3年頑張った結果がでなければ帰って来いと言われ、引き受けました。強くて愛されるチームにはどうすれば良いか、選手に対して気配り、思いやりとうらぎらない練習、今まで自分が学んだ事を伝え決して決して見返りは求めないと言われました。

グラウンドで選手を育てるだけでなく、寮生活でも指導した。自己中心的な考えは許さず基本を意識した練習を心掛けました。時には鬼になり手を上げる様な事も信頼関係の中で意識を上げるためにありました。個性を生かすため、個人カードを作り分析する資料にしました。レギュラー以外の選手には、チームの中での大切さ、役割について面談をして話し、互いの思いを伝えました。3部から2部



は、努力と共に結果が出て、1部にまで順調に上がりました。3年で一部優勝日本一になり世界で戦えるチームまでになりました。これは、太陽誘電というライバルが近くにいたからです。

世界を目指すため、海外遠征でカナダカップに行き、練習や試合を見たり行って違いを知り、受け身ではなく自ら準備、トレーニングを行い、何をしたら良いか理解できるまで意識を高める事を学んでいきました。

97年国内大会ルネサスが全部優勝し全日本の監督を全権委任状況で受ける事になり、22名中10名入れ込みました。勝つ事、そのための練習を知っている選手達でしたので必ず世界でも勝てると思ってです。98年静岡で世界選手権を勝ちオリンピック出場。シドニーは15名でしたので平等に選びました。チームのため日本のため個人を犠牲にしても勝つよう、エリート達の心を一つに向けて、日本とソフト界のために働く事をわかってもらいました。台湾合宿、アメリカ遠征と厳しい練習、環境変化への対応、チームワーク、心が一つになるチームを作っていました。

シドニーオリンピックで予選リーグ全勝、決勝戦で延長8回タイブレーク、金メダルの重圧からピッチャー交代の声が出ない金縛り状態に極度の緊張です。この回から交代を決めていたのにできず負けてしまいました。エラーで負けたのですが、選手達からは皆のエラーで一人の責任でないと言われ、自分のエラーが一番であったが、良いチームになった

と思います。

日本に帰ると空気が全く違い、高崎でパレードで迎えられ親戚も急に増えたようでした。

次はアテネでした。ルールも変わり、ソフトに対する環境が変わりました。金を目指し強化体制も良くなりましたが、結果は銅でした。責任は監督にありました。環境の変化で自分を見失い、世間にたたかれるのも当然。選手に申し訳ない気持ちでした。熱気も冷やされ、自分の周りから人が去っていきました。それでも応援してくれた人が本当の人でした。

さあ、気持ちを切り替えて北京と思ったら、監督は出来ませんでした。私の最後の夢は、上野選手がいたら、育てる事に力を入れました。

彼女はいつも大丈夫としか言わないので、バックを信頼して謙虚になって自分を信じる事を教えました。北京では解説者でしたが、見ていると気持ちも動きも全てわかるので冷静さを忘れた解説になってしまいました。決勝戦の朝、上野の指はエグれてしまっていて心配し祈る思いでした。激投の上野413球は、自分のための投球ではなく、多くの人の顔が浮かんだという皆のための一球であったからです。監督のレイカも中国という母国から監督を要請されたのを断り、日本に帰化して頑張っていました。日本に来て大変だったと思います。私のため、皆のために頑張った。レイカに私も25年救われています。

私は選手に育てられた30年、すごい選手い出会い、周りの方々に支えられた監督時代でした。

私はソフトボールを愛し選手を愛しています。すべてソフトのお陰で多くの方と出会いに感謝。父母にも感謝。根性を付けるために私の性格を知って、強い事も言ってくれたお陰で腹をくくり続けてこれました。

負けるとヘタクソ、おまえのせいで負けたと说着てしまいます。でもやろうとしてやった事でない一生懸命の中での事です。自分が下手だから下手の気持ちがわかる。できない人の目線で見られ、人を分析しどう活かすか考えるのが大人の責任です。地域も企業も同じで人を知ったうえで共に夢に向かって必死に頑張る。私もまだ夢が叶っていないから頑

張ります。オリンピックにソフトボールが復活できるよう、育成や普及活動をNPOで行っています。

学生生徒の皆さんは、地域の方にしかってもらっていますか。地域の方から暖かく見られている事を互いに感じて、声を掛けて下さい。良い時はほめて、悪い時は目を見てしかる。夢に向かってあきらめずに続けて下さい。



■謝 辞 沼田ロータリークラブ宮澤孝幸君

チームワークは人づくりで努力を続ける大切さを再確認いたしました。青年会議所の明るい豊かな社会、ロータリーの超我の奉仕、どちらにも通じ、力を合わせ心一つにしたチームワークで社会に貢献してまいりたいと思います。

先生の益々のご活躍とソフトボール界の発展をご祈念申し上げます。

